

Rise

ライズ

労働者・兵士ともに起ちあがろう！

— 自衛官との団結は職場の団結から始まる —



発行：労働者兵士行動委員会

URL：http://www.rise-rou-hei.info/wp/ Email:rou_hei_rise@yahoo.co.jp Tel.090-8961-0141

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル4階 年会費：2000円 会員外年間定期購読料：1200円

●感染者数が減少傾向にあるとはいえ、新型コロナウイルスの新たな変異種が相次いで確認され、医療・介護現場は依然、逼迫しています。しかも、保障のない緊急事態宣言の下で多くの人々が苦しんでいます。そうした矢先、10年前を彷彿とさせる福島・宮城沖を震源とするマグニチュード7.3（震度

怒れる池田さんは直ちに「上告」を宣言。結集した仲間と共に新たな闘いに突入することを確認しました。「真実を隠へいで切り捨てた」絶対に許さないぞ！

巻頭言

腐りきった菅政権を絶対に許さない！ 労働者・兵士の連帯で打倒しよう！

東京西部ユニオン（元自衛官） 杉橋幸雄

●2月25日、名古屋高裁第1号法廷において、池田元3等空曹の国賠控訴審の判決公判がありました。憲法違反のイラク派兵に動員され、現地で負傷したにも関わらず、十分な治療も施されず、暴行・パワハラで退職を余儀なくされつつも、闘い続けてきた池田さん。傍聴には多くの仲間とNHKなどマスコミも多数集まり、傍聴席に入りきれない状態でした。しかし、裁判長は1分足らずで「棄却」を言い渡し、逃げたしまいました。絶対に許せません！

6強）の地震が発生し、福島原発の放射能汚染水漏れや東北地方各地で土砂崩れや停電・断水・建物損壊やケガ人が発生し、今も余震が続いています。しかし、菅政権と財界は原発維持・再稼働です。しかも、国内ワクチン接種が始まったものの、世界では「ワクチン争奪戦」が激化しており、接種スケジュールは大幅遅れで接種体制も追いついていません。にもかかわらず、東京五輪の為に医療従事者などが1万人も動員されようとしています。救える

ら破壊してきた資本主義。「核兵器禁止条約」が成立しても核武装・原発を押し進め、戦争をしても生き延びようとしています。その攻撃の核心は国家暴力をもつてする階級性の解体・団結破壊です。しかし、「11月の三労組」をはじめ、粘り強い世界の労働者民衆の命がけの闘いによって、資本主義の歴史的限界性が鋭く暴き出され、人類の新たな在り方を希求する激しい階級闘争・労働運動が歴史の前面に登場しつつあります。

命さえ救えないからこそ、約7割の人々が「五輪延期又は中止」の声をあげているのです。女性蔑視発言の東京五輪組織委員長・森喜朗を打倒しましたが、その後釜は橋本聖子や丸川珠代であり「自民党政治」そのものです。利権まみれの東京五輪など即刻中止し、五輪予算を医療・介護現場と失業・貧困対策に投入すべきです。

義を終わらせる国境を越えた労働者・兵士の団結です。命切り捨て・利権まみれの「五輪開催」にしがみつき、「接待浸けの腐臭まみれ」の菅政権を今こそ打倒しましょう！改憲・戦争攻撃を打ち砕き、資本主義を終わらせる階級的労働運動を断固、押し進めましょう！



●コロナの前から「命より金儲け」を追求し、人間社会も地球環境も根底か

自衛隊基地建設反対なき選挙

1月17日の宮古島市長選挙で「オール沖縄」勢力が擁立した座喜味一幸が当選した。座喜味は元々は自民党議員であり、2017年の前回選で賛否が割れた島への陸上自衛隊配備については、「容認」の姿勢で争点にはしなかった。これは「オール沖縄」共産党の自衛隊に対するスタンスが、米軍にはNOだが、自衛隊は「容認」の姿勢に後退している。



自衛隊基地建設反対！ 菅政権打倒！

在本土沖縄労働者会議 宮里勝博

玉城知事も今回の選挙で明確に「反対」とはまったく言わなかった。自らが「争点」外しの発言をしている。要は米軍基地のない先島諸島への自衛隊配備にはあまり関心を示していない。むしろ自衛隊を「救援・救護行動」に使うことを容認している。前知事の翁長も「自衛隊反対の声がもう少し大きくなれば自衛隊基地反対を言える」と関係者に発言しているのである。これらは積年の沖縄本島の先島地方への「差別」として住民は感じるのである。しかし、基地建設反対の声は後退しているのではない。住民運動系列の団体が基地前等々の抗議活動を続けているし、宮古島市保良地区の弾薬庫建設はまだ完成してはいない。宮古島でのコロナ蔓延に乗じて「自衛隊医療チーム(たった五人だ)」の派遣は自衛隊の宣伝材料に使われてはいるが、そもそも宮古島での「医療崩壊」は国・県の地方への医療体制の「放棄」の結果である。コロナ禍での運動形態の多少の変化はあるにしても医療労働者への激励・支援、菅政権のもとで行われている自衛隊基地建設反対は私たちの闘いにかかっている。

また、2021年2月7日に自

宮古島自衛隊配備図



衛隊宮古島駐屯地の隊員宿舎で「子ども殺害事件」が発生した。原因の詳細は公表されていない。この事件は「事件」が、あまり「起らない」宮古島に於いては衝撃的事件だ。自衛隊員その家族にかかる「戦争最前線」への赴任が重圧としてあるのは明白で、その原因の究明は自衛隊隠蔽体質を問うものである。

自衛隊基地建設反対闘争の経過

▼2015年9月 安倍内閣で安保法制の国会通過、2016年3月の施行。

▼2016年2月 北朝鮮による「ミサイル」迎撃に宮古島への自

衛隊によるPAC3配備。

▼2018年2月 上野野原の千代田カントリークラブ跡地に造成工事基地建設開始災害を含む各種事態が起きた際に迅速に初動対応を行う警備部隊と、南西諸島に対する侵攻を可能な限り洋上で阻止する地对艦誘導弾部隊、地对艦誘導弾部隊と連携し防空を行う地对空誘導弾部隊。陸上自衛隊宮古島駐屯地は第15旅団宮古島警備隊、第444会計隊、第322基地通信中隊派遣隊から編成され、現在約380人が駐屯。最終的に700〜800人の部隊を配備。

▼2019年3月 宮古島駐屯地開設、宮古警備隊が新編。

▼2019年3月 宮古島市に発足した陸上自衛隊の駐屯地に距離、多目的ミサイルなどの弾薬を保管していたことが発覚。

▼2019年4月 多目的ミサイル弾薬を保管することを住民に説明しなかったという事で岩屋防衛大臣が謝罪。

▼2019年10月 宮古保良地区弾薬庫建設で説明会参加を住民拒否。

▼2019年10月 城辺保良地区自衛隊弾薬庫建設に着工。

▼2020年3月 第302地对

艦ミサイル中隊を新編し宮古島駐屯地に配備。

▼2020年10月 保良地区住民の自衛隊弾薬庫建設反対抗議行動継続。



抗議行動

大まかな宮古島自衛隊基地建設経過ではあるが、2015年の安倍政権下での「島嶼防衛」自衛隊配備は対北朝鮮・中国への対抗手段としての配備計画であり、直接的には魚釣台（ちようぎよだい）防衛を目的としている。この自衛隊配備は「島嶼」での戦争を想定したもので「軍隊は住民を守らない」という軍隊の本質を示すものである。

「オール沖縄」の基地建設への後退は断じて許されるものではない。

い。既成事実負けず、根強く反対運動を続ける住民運動と連帯する道は菅政権打倒以外にないことは明白であり、コロナ禍における医療労働者、労働現場で闘う労働者と連帯し菅政権を打倒しよう！

問われているのは菅政権打倒だ！

（コロナ×大恐慌）情勢下で膨大な数の労働者人民が生きるか死ぬかの状況に置かれている中で、労働者の根源的な怒りが噴き出している。森元首相の「女性差別発言」問題、コロナ禍でのオリンピック開催問題、議員の「密」会食問題、菅息子の「接待」利益誘導・買収」問題等々と、どれをとっても労働者を愚弄する行為である。今や菅政権はグラグラだ。これを根底から粉碎し打倒しつくさない限り問題の解決はない。

コロナ下での大量解雇と賃下げ、総非正規職化の攻撃に真っ向から立ち向かう核心はあらゆる職場に労働組合の闘いをよみがえらせること、闘う労働組合の全国ネットワークをつくりだすことだ。そしてこの労働組合の団結を軸にあらゆる人々の「生きさせろ！」の闘

いを一つにつなぎ、日帝ブルジョアジーの政治支配を實際に覆す巨大な力へと発展させていくことだ。
3・21「スガ倒せ！いのち守れ！」改憲・戦争阻止！大行進集会と銀座デモに総結集しよう。

軍隊慰安婦「アリランの碑」について

新設自衛隊基地と航空自衛隊宮古島分屯地の間に「アリランの碑」（宮古島市上野字野原311-2）がある。宮古島を訪れる際は必ずこの地を訪れて下さい。12の言語で反戦の誓いが書かれています。また、隣には戦争で飢えに苦しんだ碑が建立されている。ここに反戦の砦

があり
ます。
「アリランの碑」で
検索すれば出てきます。共に闘おう！



アリランの碑

「国の違法行為を裁かないのか！」 名古屋高裁の不当判決に、 池田さん、ただちに上告を決意

池田自衛隊裁判をとにも闘う会

2月25日、名古屋高裁の大法廷内外は、怒りの声で包まれました。

イラク派兵中のクウェートで米軍関係車両に追突されて負傷した池田頼将元3等空曹が、自衛隊の安全配慮義務違反と闘ってきた国



報告会で上告して闘うことを宣言する池田さん

家賠償裁判控訴審で、名古屋高裁萩本修裁判長は、名古屋地裁判決を踏襲して「国の違法行為、安全配慮義務違反は認められない」と、損害賠償請求をことごとく否定し、高裁に提出され証拠採用された元自衛官の陳述書の内容に対し、「客観的裏付けがあるわけではない」と切り捨てました。国・自衛隊を免罪したのです。

しかし「控訴棄却」の反動判決に対して、「これでも裁判か」「司法は死んだ」「国の違法行為をなぜ裁かない」と糾弾の声が叩きつけられ、報告会を兼ねた池田さんの激励会では、次の闘いにむかって力強い訴えが続ききました。

池田さんは、「怒りで一杯です。自衛隊の先輩は本当のことを言ってくれました。これを法廷にも出せましたから、本当に良かったと思っと思っています。しかし、尋問しな



弁護団と共に報告会に臨む

いで判決を出したことには、納得できません。判決を受け容れることはできないので上告します」と不当判決をきっぱり突き返しました。

「復興支援が目的」「戦闘地域への派遣はしない」「石ころにつまづいても公務災害」として中東に隊員を送り出しながら、全てが嘘でした。池田さんの裁判は、国が隠しておきたいこうした真実に触れ、隊員や家族の側に立って嘘をついた国の責任を追及する裁判です。

しかし、名古屋高裁判決では、

騙された側の被害は救済せず、使用者である国・自衛隊の責任は裁きませんでした。この判決は反動判決ですが、「国は約束を守らない」「自衛隊員を利用して使い捨てにする」ことを認めたという点では墓穴を掘った判決です。

国も、自衛隊・防衛省も、池田さんが隊内から「国は平気で嘘をつく」「隊員は将棋の駒ではない」と人生をかけた闘いにたちあがったことに完全に追い詰められています。池田さんに続く隊内からの裁判への支持が広がり、上官や国の命令への不安や不信が広がっています。

池田さんの訴える国賠裁判は、裁判所の判決で決着がつくものではありません。戦争国家へと国の在り方を変えようという国に対して、改憲と戦争絶対阻止の闘いのなかで労働者と自衛隊・家族との団結が広がっていくことをめざしているのです。ともに闘いましょう。



コロナ危機と大恐慌情勢を革命へ！

滝山猛師

(一) 新自由主義を打倒する実力を！

時代は激しく動いている。戦後の帝国主義・資本主義体制は、新自由主義の破産と崩壊にまで至り、とめどのない矛盾を拡大させながら人類そのものの存続の危機を深め破滅への道をひた走っている。そしてすでに極点にまで達していた新自由主義の崩壊的危機と矛盾が、今まさにコロナ危機と大恐慌として爆発し、世界を覆っている。コロナ危機と大恐慌は大量の企業倒産を生み出し、労働者から職場と住居を奪い、路頭に放り出している。これからの社会を担う青年と40代の多くの人たちが自ら命を絶つ社会に全人民の怒りが爆発している。

この人類未曾有の事態に直面し、あらゆる既存の体制内勢力と労組が階級性を喪失し、国家権力と資本に協力する立場に転落し、労働者の怒りの決起をも抑え込む反動と反革命への道に転落している。だがこれらは決して人類と労働者民衆に絶望を与えているだけではない。労働者民衆のより一層強力な、より一層広範な労働者階級の決起をつくりだす条件を地球規模で生み出し世界の革命的情勢を日々、形成している。まさに革命と反革命が激突しながら「戦争か、革命か」という歴史選択の革命的



2021. 2/22 ミャンマー・マンダレー
軍のクーデターに対する抗議のゼネスト

情勢である。今、世界の労働者階級民衆に問われているのは、この革命的情勢を革命に転化する革命勢力の実力である。実力とは、新自由主義を打倒するストライキであり、トランプの米連邦議会襲撃事件に表現されている極右ファシスト勢力の予防反革命勢力を打倒する労働者階級人民の革命的暴力である。その拡大と組織化の団結である。新自由主義国家と武装反革命勢力を打倒する革命的暴力の復権である。

その土台となるのがストライキ・ゼネストを武器とする階級的労働運動の前進と飛躍である。それは可能である。戦いはすでに世界の労働者の職場で、地域で、街頭で、国家権力と極右ファシストの反革命暴力と対決し、かつてない質と量で、しかも世界的規模で非和解で開始されている。

国境と人種を超えた全人民の決起

米国内ではジョージ・フロイド氏の虐殺を契機にBLM運動が爆発し、アメリカ労働者人民の怒りが人種を超えた内乱的決起として爆発している。BLM運動は米史上最大のデモと運動に発展し、州兵の一部も運動に連帯している。中国スターリン主義の暴政と闘う香港青年労働者の闘い、軍事クーデターに対するミャンマー（ビルマ）労働者人民の怒りのデモは2007年の「サフラン革命」をはるかに超える規模で全土に拡大している。軍政を阻止するために業務をボイコットする「市民不服従運動（CDM）」としても拡大し、労働者がストライキに立ち上がっている。国軍はストライキに決起



2021. 2/28 ヤンゴン
催涙ガス銃発射する治安部隊

した労働者を銃撃し18人が虐殺され(2・28現在)、医療労働者を含む多くの負傷者、逮捕者を出している。それでも軍事独裁への怒りは数百万の労働者民衆のゼネストへと史上最大規模の決起が爆発している。「22222」運動として爆発し、主産業の繊維業を含む大半の工場が閉鎖されている。物流や商業・経済活動や行政サービスも停止した。銀行員の不服従運動で金



2021. 3/1 ミャンマー・ヤンゴン
自作の盾で催涙ガスから身を守る

融機関も停止。労働者は「軍を追い出すまで職場には行かない」と非和解のゼネスト、デモに実力で決起している。軍政と中国スターリン主義の民衆の怒りの決起は、「暴力で抑え込める」という思惑は完全に吹き飛んでいる。国民の

3割を占める少数民族の武装勢力も労働者人民の抗議デモを支持することを決定した。フランス、イタリア全土のゼネスト、ロシア全土に広がった反プーチンの抗議デモ、イラク・中東全域での反政府デモはアラブの春の第2波といわれ激しく爆発している。アフリカ、中南米での反政府デモの爆発、

タイでもコロナによって中断していた労働者の闘いが開始された。コロナ危機が暴き出した政治的腐敗、経済的格差、社会の崩壊という階級社会の現実に対して全世界の労働者人民・兵士が「命と生活を守れ！」と生きるための総蜂起が、今、全世界で燎原の火のごとく巻き起こっている。

日本も例外ではない。コロナ危機で菅(安倍)政権と官僚の政治的腐敗が暴き出され、オリンピックは森発言によって天皇制社会の差別構造が全世界に露呈した。日帝・菅政権は墓穴を掘り、瓦解の危機に叩き込まれている。それが菅の面相にもはっきりと表れている。だが菅政権は自壊しない。日帝・菅打倒は労働者階級人民の怒りの実力によってしか実現できない。このことを真向から見据えよう。資本・国家権力と労働者階級・被抑圧人民の戦いは非和解である。どのような困難に直面しようとも階級対立は非和解である。これを曖昧にする日和見主義とその勢力は支配階級の軍門に下り、武装反革命に転化する。

革命の戦場は職場、労働者の武器は団結とストライキ

コロナ危機と大恐慌、新自由主義の破綻という事態の極限的な矛盾の坩堝が職場・生産点である。その坩堝から労働者の根底的な怒りの決起が激しく爆発している。労働者自己解放プロレタリア革命



2021. 2/28 ヤンゴン
治安部隊とにらみ合うデモ隊(手前側)

への展望を示す決起である。その決起は非和解である。労働者の怒りは、国鉄はもとよりコロナ危機下の医療・福祉・介護現場の労働者のストライキとして爆発し、それに続く決起が全産別の職場に拡大する勢いで進展している。特筆すべきは、未だ端緒的ながらも全産別の職場の闘いが「改憲・戦争阻止！」の反戦・政治闘争と結びつき進撃していることである。ここに菅打倒！日帝打倒！プロレタリア革命の展望が示されている。プロレタリア革命の軍隊組織・軍勢は、階級的労働運動であり労働

者階級人民一人ひとりの行動だ。日本の労働者階級人民の闘いは全世界で渦巻く大動乱の一翼をなし、プロレタリア世界革命の巨大な軍勢として合流する。

関西生コン支部労組解体攻撃を労働者階級人民の団結力で粉碎し、労働者民衆と兵士・家族の命・雇用・生活を守り抜き、新自由主義を職場から、隊内から、打倒する労働組合・労働運動、隊内組織・兵士運動の建設が階級的労働運動の課題として、いま鮮明になっている。これらは革命情勢と日本の労働者階級人民の闘いが切り開き、導き出したものだ。

(二) 革命と反革命の激突

米連邦議会突入・占拠は革命 圧殺の反革命蜂起

さて、これからが本題である。

バイデンにとって「トランプは過去の人？」(AFP)。果たしてそうか？

米大統領選における得票数を見ればバイデンが51%、トランプが47%。大統領選で8千万票を超えたのはバイデンが米史上初で

あるが、トランプの得票数も米史上2番目である。要するに極右・白人至上主義・ネオナチなどファシスト武装勢力とそれに反対する勢力がアメリカ階級闘争を二分している。反体制・革命勢力と武装反革命勢力の内乱としてアメリカ階級闘争は激突している。

BLM運動と労働者階級のストライキが爆発する渦中でトランプと極右勢力によって1・6米州議会襲撃事件が強行された。この事件は紛れもなく全米に拡大したBLM運動と労働者階級のストライキを、言い換えれば革命を圧殺するための極右反革命勢力の武装蜂起として強行されたプロレタリア革命への予防反革命の武装襲撃である。これを見据えよう！現時点においてもトランプと極右は共和党のトランプ化策動を強化し、「トランプ・チャンネル」を立ち上げ極右・保守勢力の結集を策動している。仮にバイデンがトランプを「過去の人」として、そして1・6襲撃事件を「過去の事件」として消し去ろうとするのであれば、それはバイデン自身が極右トランプと同様の武装反革命として同類の支配階級であるからだ。米帝の没落と新自由主義の破綻が米

支配階級にトランプを生み出したようにバイデンもこの没落と破綻から自由ではない。米中戦争とプロレタリア革命の圧殺に突進するのがバイデン政権である。

全人民の人間的自己解放へ！

現代世界は国際連帯とプロレタリア世界革命によってしか突破できないという現実を1・6予防反革命襲撃が全世界に改めて明らかにした。そもそも国家とは抑圧階級と被抑圧階級の和解しえない階級対立を、軍隊と警察、及び極右民間武装勢力の暴力によって労働者人民の闘いを解体・圧殺せんとする権力である。したがって国家権力を打ち破るには労働者階級の暴力革命なしには不可能なのである。革命と反革命の激突は、革命的暴力と予防反革命暴力との激突である。労働者階級人民がこの激突に実力で勝利したとき社会の真の主人公として権力をにぎることが可能となる。労働者の権力とは労働者階級による独裁である。労働者階級は、階級的労働運動のストライキとゼネスト決起の中で訓練され、武装と武装闘争を学ぶ。搾取される被抑圧階級としての搾

取と分断、苦しさ、辛さと悔しさ、怒り、そして団結して闘うことの喜びの中で労働者人民は階級として自覚し、武装し、ゼネストに決起し、武器をとって一斉武装蜂起と革命に決起する。その全過程で自己解放への道をつかみ取る。プロレタリアートとはそういう存在である。プロレタリア革命の勝利は、広範な大衆を戦闘部隊に組織し、国家権力を打倒するために立ち上がるこの武装蜂起にまで至るといふこと。それはゼネストと結合して行われる武装蜂起でなければならない。全人民の武装はあらゆる闘いを媒介にして、あらゆる水路で推進し獲得されていく。その基盤は階級的労働運動の前進である。

世界で開始されている反政府デモのストライキ、反乱・暴動は、新自由主義の破綻が生み出したコロナと大恐慌情勢下の内乱的激突である。それは本質的にも現実的にも革命と反革命の非和解の激突であり、全人民の人間的解放に向けた激突である。

今、世界中で求められているのはプロレタリア世界革命を引き寄せ労働者の国際連帯と反帝国主義・反スターリン主義の世界単一の革

命党建設であり、その基礎・土台となる階級的労働運動の前進と国際的潮流の統一である。

人種を超えたBLM運動に米連邦軍兵士が合流

レーニンは、【左翼空論主義】の中で次のように言っている。

『資本家から搾取されている大衆が、これまでの方式では生きていくことができないことを看取してその変更を要求するというだけでは、革命には不十分である。搾取する者の側でも、同じくこれまでの方式では存続することも支配し



州兵と交流を始めたBLM抗議隊の様子

ていくこともできないということ、併せて必要である。言葉を換えていえば、搾取する者の側、搾取される者の側を通じての、全国的な危機がなければ革命は不可能である。まさにコロナ危機と大恐慌情勢下、世界で進行している事態である。

そして、蜂起一行動開始を可能とする具体的条件として3点をあげている。

『①労働者人民の革命的気分が溢れ出ており、われわれの革命的行動のスローガンや、指令が自然発生的な大衆の運動から明らかに立ち遅れるような革命的状况にいたり、われわれがその決起した大衆を抑制することが困難であり、必ずしも成功的にそれを抑制しえないうとき、②敵支配階級とその陣営内部における不信と混乱、腐敗と崩壊が頂点に達したとき、敵陣営内部からの離反者が、日毎に、否、時間毎に増大するとき、中立分子、幾百万・幾千万の小ブル大衆がハッキリと敵支配階級陣営から離れ、プロレタリアートとの同盟を求めたとき、そのため敵の統治機構が、それとともに弾圧機構の機能が低下し、また部分的に停止し、役に立たなくなり、プロレタリアート



州兵と握手をするデモ参加者

の独裁権力のために道を開いたとき。まさにアメリカと日本を先頭に世界で進行している事態である。そして『③これら①と②の条件が時間的に一致したとき』である。

支配階級が動揺し自信を喪失し、解体的状態に陥り、労働者階級人民は革命を熱望しているという二つの条件が一致する情勢が日々、進行している。アメリカをはじめ支配階級の動揺と分裂はすでに始まっている。菅政権も崩壊寸前である。とどめを刺すのは労働者階級自身による暴力革命である。そ

の土台を成すのが階級的労働運動であることを常に確認し、階級的労働運動を前進させる実践が、今、日本でこそ求められている。

国家暴力としての軍隊、侵略戦争の担い手としての軍隊、労働者階級民衆の反乱と暴動、革命を鎮圧する暴力としての軍隊と警察。だが米兵はベトナム戦争やイラク・アフガン戦争では徴兵を拒否し、戦場での隊内反乱に決起し、戦場での命令を拒否し、脱柵（脱走）など、死刑という厳罰と対峙しながら軍隊としての組織的機能を崩壊させた。また帰還兵の多くがPTSDと闘いながら反戦兵士として、今も決起している。

米連邦軍はBLM運動への治安出動を拒否し、BLM運動に連帯・合流する兵士を生み出している。日本でも池田自衛隊裁判に連帯し、支援する兵士の行動が生みだされている。新自由主義の破綻が行き着いたのが軍隊の民営化、監獄の民営化である。そもそも階級支配を維持するための暴力機構を民間の手に委ねるといえるのは帝国主義支配階級の崩壊を意味する。世界は紛れもなく革命情勢に突入している。闘いはこれからだ！共に進撃しよう！